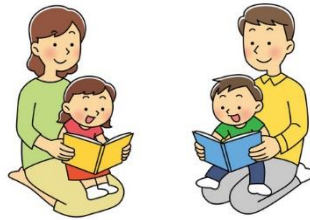


5年生オススメ図書

お子さまとゆっくりした夏休みに

読書で楽しいひとときを過ごしてみませんか？



カモメに飛ぶことを教えた猫 **ルイス=セプルベタ**
 河野万里子 訳

約束を守る誇り高さや種族を超えた愛情、『飛ぶこと
 ができるのは、心の底からそうしたいと願った者が、
 全力で挑戦したときだけだ』というメッセージが心に
 響きます。



天のシーソー **安東みきえ**

なにげない日常。でもその中で子どもたちは根源的な不安をかかえて生きている。他者を思いやりながらも不器用にふるまってしまう痛み…。子どもたちの心模様を、しなやかに捉えた作品です。



木を植えた男 **ジャン=ジオノ 原作**
 寺岡襄 訳

フランスの山岳地帯に一人とどまり、何十年もの間黙々と木を植えて、森を蘇らせた男。その不屈の精神を感動的に綴る物語絵本。



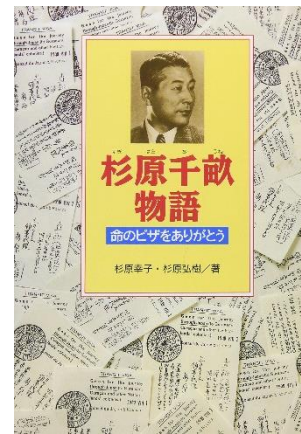
てんとうむし **阪田寛夫**

阪田寛夫さんの名前は知らなくても、国民的童謡「サッチャン」なら知っている人はたくさんいると思います。「てんとうむし」を読んでもう一度、いっぺんに好きになってしまうこと、請け合いです。



ほくが消えないうちに **A.F.ハロルド 作**
 こだまともこ 訳

ラジャーは、アマンダの想像力が生み出した「見えないお友だち」で、二人は大親友だ。しかし、あるおそろしい出来事をきっかけに、二人は離ればなれになってしまう。



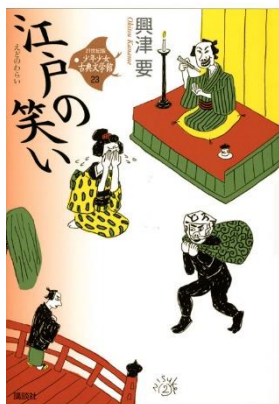
杉原千畝物語 **杉原幸子 / 杉原弘樹 著**

1934年、満州。外交官の杉原千畝は、堪能なロシア語と独自の諜報網を駆使し、ソ連北満州鉄道譲渡の交渉を成立させる。しかしその裏で共に闘った仲間を失い、ソ連から入国を拒否される。



月のえくぼを見た男 **麻田剛立**
 鹿毛敏夫

『月のえくぼ』とは、月面のクレーターのひとつひとつに歴史上の有名な科学者や天文学者の名前がつけられているそうです。その中に『アサダ』という日本人の名前があります。



江戸の笑い **興津要**

ユーモアがぎっしりつまっている小咄。俳句・短歌とおなじ字数で、人生のよろこびとおかしさをうたった川柳・狂歌。笑いをたのしむ心がうんだ、おもしろ読みものを満載。笑い、また笑いの一巻。



ダーウィンのミミズの研究 **新妻昭夫 文**

土の中に住むちっぽけな生き物、ミミズ。だれもが知っているのに、だれからも注目されることはありません。ところが、そのミミズの研究になると40年、ほとんど生涯を賭けた人がいました。



サンゴの海 **長島敏春 文**

この本の著者はフリーの写真家。独学で水中写真の撮影を始め、以降世界中の海の写真を撮り続けています。そんな著者がやってきたのは、沖縄県の石垣島。日本最大のサンゴの島です。